

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

ストーブストーブぽっかぽか～♪
北風吹いてもぽっかぽか～♪
みんなであたればぽっかぽか～♪
さむ～い冬を乗り切ろう～♪

2022年 2月号

目次

- ☆工房ぶらす・・・・・・・・・・・・・2
- ☆活動報告・・・・・・・・・・・・・3
- ☆なつかしのアルバム・夕会報告・・・4
- ☆ひとり言・・・・・・・・・・・・・5
- ☆風の便り（稲田）・・・・・・・・・・・・・6
- ☆風の子水先案内・・・・・・・・・・・・・7～8
- ☆～太田圭子さん、やすらかに～
太田圭子さん追悼特集
～波多野～岡本明
～メンバー～職員～井出・・・9～18
- ☆賛助会のお礼・所長のため息・・・19
- ☆ギャラリー風の子・・・・・・・・・・・・・20



工房ぱらす

廣瀬 依生

予定であった内職とコロナの影響で MIM-NANOマルシェは延期になってしまいました。今月は、会報折りと手漉きハガキ作りだけのいつもの工房でした。

新しい内職を楽しみにしていましたが皆 がっ・か・り・😞 していました。なので、今こそ出来る事を工房の皆と頑張りたいと思います。

1月15日（土）工房会議でハガキの値段をかえるか、の話し合いを行いました。値段をそのままか、値段を下げるかみんなの意見が分かれたため、決まりませんでした。また次回の会議で話し合うことになりました。



一生懸命つくったので値段を変えたくない
と言う意見も出たようです。

会報を順番に重ねている
掛橋さん



遅くなりましたが 12月の《はなみずき》の売り上げ

ランキングは、ストラップが21個売れて2位でした。

クリスマスキーホルダーが、14個売れて3位でした。

手漉きハガキは、13枚売れて4位でした。

手漉きハガキは、ランキング5位以内に入っている事が多いので嬉しいです。工房の皆は、毎日やる気になって作っています。読者の皆さんも購入して頂ければ嬉しいです。



活動報告 12月28日から1月31まで

メンバー島田龍司

《1月7日》

朝、雪が積もっていたので遅れました。帰りの送迎では道が混んでいたため、車が進みませんでした。自分は家に着いたのがかなり遅くなりました。

《1月15日》

企画会議をしました。議題は2月号の記事分担の確認を行いました。他にもカラー化をどこに追加するかは、今度の企画会議で決める予定です。さらにつぶやきの名前を変えて見ては、と言う井出さんからの提案がありました。そこで企画の皆さんに順番ずつ聞きました。「ひとり言」に決定しました。他にもボランティアさんからの投稿に関しては、つぶやきではなく「風の便り」と言う名前に変わりました。

岡本さんがチェーンを外そうと苦戦しておりました。



《1月22日》

男子職員がチェーンを付ける練習をしていました。

《1月29日》

次回の夕会は、「2月5日」に変更となりました。同じく企画会議も「2月8日」に変わりました。

企画ではイラストレーターを使って作品をメンバーが描いております。今回は柳川さんの作品を活動報告に載せます。

柳川さんは職員の石黒さんに手伝ってもらいながら「オレの船」と言う作品をイラストレーターで作りました。





風の子・なつかしのアルバム



昭和56年・夏 料理教室(港区
婦人会館にて)
ボランティアにお手伝いして貰
いながら料理をしているダンナ

この写真は昭和55年の忘年会の様
子です。
和栗さん(左) カミさん(中央)



yuki



夕会報告

1月1回目の夕会報告

日時：1月8日13時-14時30分 司会：島田 補助職員：小林 書記：木村

議題：コロナの急拡大を受けて、1月の散歩は中止にした方が良いのではないかと
の意見が司会者より出され議論する。

1回目の多数決では賛成15反対5で決されたが、感染対策をしっかりとし
て、小人数で、近場に行くのなら良いのではないかと提案が出て再度多数決
をするが、賛成7，反対13出て1月の散歩は中止することが決定した。持病
を持っている人も多くオミクロン株の感染拡大にはみんな敏感になっているよ
うだ。このところ、コロナ(デルタ株)の感染が落ち着き、1月は散歩には行
けるとおもっていたが年末からのオミクロン株の感染急拡大でまたまた我慢が
続くことになった。

1月2回目の夕会報告

2回目は、司会の島田君が欠席したため、来月に、延期になった。

報告者：メンバー 小熊 健



☆ ひとり言 ☆

～ メンバー、職員が日々の生活で思ったことを語る新しいコーナー ～

この1年くらい、会報がかなりバージョンアップしている。メンバーと職員が頭を悩ませ頑張った結果だ。読者の皆様にはどのように映っているだろうか。感ぜひぜひお待ちしております。「風の便り」に掲載しますので。

メンバー 小野塚 航

私は朝、コーヒーが好きで一日二杯は飲んでいますが。二十代の前半は大人の気分を楽しもうとブラックで飲んでいました。しかし飲み続けているうちに甘さも欲しくなりミルクと砂糖を入れるようになりました。

そんな僕が好きなのはパンダです。小さい時はチョコチョコ動きまわって愛嬌ふりまいていりしぐさだけなのにみんなの人気の的になり愛くるしいです。私は何をしても失敗の連続ですが飲み会などで雑談をしているときに布団が吹っ飛んだ、隣の家に囲いができたんだってなへえ～（堀）など、ギャグなら自分も負けていません。

コロナが収まったら僕とパンダの愛くるしさを比べにいきたいと思います。

メンバー 掛橋竜也

今、風企画はギャラリー風の子として皆それぞれ絵を描いていて、今月（2月）は、僕の絵が掲載されます。僕は『和風』をセレクトしています。皆さんお楽しみに・・・

メンバー 田中聡

辺りを見ていると10年前とは確かに違う、世の中を模写する様な淡い色の続く街の風景

それだけ人の心がモノクロになった。

メンバー 信高正義

寒風吹き 身震いしながら 作業する

メンバー 三木直人

私、缶コーヒーが大好きです。風の子会から帰ったら缶コーヒーを必ず飲んでいりる。

メンバー 柳川敬事

寒い日が続いています。早く暖かくなってほしいものです。

職員 小林宏幸



風の便り

一緒に楽しんでいきます

稲田 幸子

傾聴ボランティアの講習会后に「出来ることに○を」とアンケート用紙が配られた。ルールもあやふや、点数計算などは全く出来ないのに、なぜか「麻雀のお手伝い」に○を付けてしまった！

初めて伺ったのは、最終土曜日が「クラブ活動日」となった時だったと思う。新設「麻雀部」には全く初めての方、学生時代からの勝負師？もいて、ゆっくりだが時間一杯、和気藹々とゲーム。原稿依頼時に、「私が楽しんでいるだけで、、、」と躊躇したが、岡本さんが「ボランティアさんが楽しくなければ、メンバーは楽しめませんよ！」と。あの時アンケートに○を付けたのが、ご縁の始まりで、あの時の○印は確かに私の生活に○、いや◎となった。いつも楽しんだ上に、沢山の“お土産”も頂いている事に心から感謝している。

部員も増え、勝負に拘る位、皆真剣に？なってきたのに、コロナ渦で休止となり非常に残念。早く、皆さんと一緒に過ごしたいと切に願っています。



奥、右から2人目が稲田さん

☆ 風の子水先案内 ☆

～ 2022年1月の出来事 ～

・レイアウト変更

→実習所内の換気対策徹底のため、常に窓を開けて空気の流れを動かしている。そのため室温はいつも低く、風の通り道になっているような場所は更に冷える。メンバーの防寒対策も兼ねて実習所内レイアウト変更を試みる。更には石油ストーブを使ったり、厚着や使い捨てカイロで寒さを凌ごうとはしているが、換気と防寒を両立させるのは、とても難しい。



・散歩はまた中止



→1月に入って、オミクロン株によるコロナパンデミック第6波感染が拡大した。オミクロンの感染爆発はデルタの第5波とは比べようもない速さで広がっている。これはもう、散歩がどうこうという話ではない。この第6波がおさまっても、いずれまた次の株がパンデミックを引き起こすのだろう。果たして本当にコロナ終息の日はくるのだろうか。

・今月の運営委員会

○コロナ対応、経過と今後

- ・第3回コロナワクチン巡回接種計画は、進んでいる。
(一人暮らしのメンバーのワクチン接種後の副反応には注意が必要である)
- ・メンバー及び職員のコロナ、インフルエンザ、熱発等発生時の風の子会としての対応方針を再確認した。
- ・オミクロン株によるコロナ第6波再拡大のため、1月の散歩企画を中止とした。
- ・室内の二酸化炭素濃度は650ppm以下を目標としていたが、あまりに過酷な設定値だったため800ppm以下に修正した。

○防災関連報告

- ・アルファ米を200食分補充した。
- ・石油ストーブを1台購入した。
- ・使い捨てカイロのストックの確認をした。



- メンバーの防寒対策に適しているか、試用してみる。
- ・引き続き、災害伝言ダイヤルを試してみる。
→災害発生時の連絡ツールとしてLINEは有効なのか、確認する。

○大雪対策

- ・1月6日、都心に大雪が降り積もり、翌日の風の子の送迎に支障をきたした。今後同様の状況になったときの対応策として、大雪が降った夜は男性職員にホテル泊をしてもらってフレキシブルに送迎ができるようにしようという案が浮上した。
- ・装着しやすいタイヤチェーンに買い替えることにした。

文責 運営委員・小野塚



～ 太田圭子さん、やすらかに～

太田圭子さん追悼特集

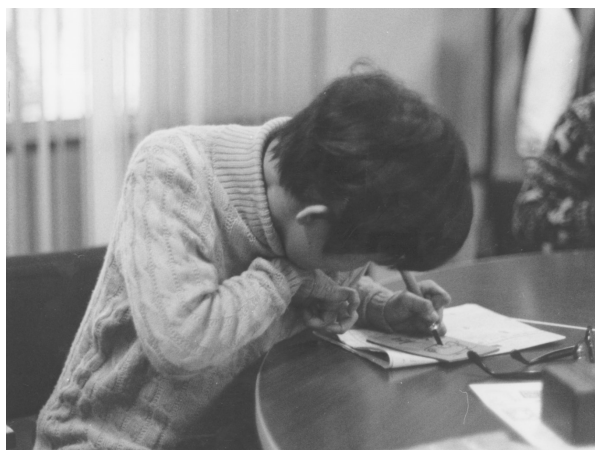
僕は圭子が亡くなってから風の子に行っている内は良いのですが、帰るとつまらないです。だから、よけいに風の子が休みの時はつまらないです。ヘルパーさんは気を遣ってくれるのですが、夜はつまらないです。今さらのように圭子の存在が大きかったなあと思います。

太田稔



太田稔さんと圭子さん夫妻。昭和58年頃

太田圭子さんが風の子会でやってきた事を写真で振り返ります。版面作成からタイプライターを使用しての文章作り。そしてオペレートナビを使って、足を使っての会報作りからスイッチボタンを使っての会報作りと色々なことに挑戦してきました。また階段の昇降や料理教室もやってきました。



版面を彫る（昭和55年）



電動タイプライターの練習（昭和58年）



料理教室（昭和58年頃）



階段を登っている（平成6年、自主活動(箱



足でのパソコン操作（平成12年）



スイッチボタンでのパソコン操作（平成19年）

かみさんの思い出

波多野 栄子

「けーこ」と「えーこ」

同じ年の5月に生まれた私達は、いつもお互いをそう呼んでいました。1990年（平成2年）に偶然出会った風の子会の表参道でのバザー。それから20年近くのけーことの触れ合いが始まりました。

- ・きゃしゃな両手の指を胸の辺りで少し絡ませるようにして、バレリーナのように優雅だったけーこ。
- ・頭が良くて落ち着いていて、でもとても好奇心が強く何でも学ぼうとしてキラキラとした瞳が美しかったけーこ。
- ・そして何よりも、他人のうわさ話をしたり、悪口を言ったりしたことが一度もなかったけーこ。

私にとってけーこは本当に信頼し尊敬することのできる人でした。

- ・東麻布の小さな作業所。私は週1回行ってごはんを炊いて井ぶりものを作りましたが、けーこはいつも「青い野菜もね！」と言い、必ずほうれん草や小松菜を添えました。栄養のバランスをちゃんと考える主婦でした。
- ・川越での一泊研修ではけーこと二人同室で小さなお風呂にけーこを抱っこするようにして入ったのが懐かしくあったかい思い出です。
- ・太田家でだんな、けいこ、妹さん、ちーちゃん（真部さん）、私、時には私の夫も一緒に飲んで語って笑って遅くまで過ごしました。18歳未満お断りの会話も！だんな覚えていますか？

思い出は尽きませんが、相思相愛のだんなと出会い、沢山の困難を乗り越えて添い遂げ、海外旅行にも度々行って、いつも誇り高く凜とした人生を生き切った人、けーこ。障がいなど忘れさせてくれる、本当に見事な一生だったと思います。

あとはどうぞ、だんなを守ってあげてくださいね。



波多野栄子さんから提供していただきました、太田圭子さんと波多野栄子さんの写真

カミさん、ありがとうございました。

岡本 明

新しい年が明けました。去年カミさんとお別れしてからもう3か月です。天国でも新年を祝っているのでしょうか。カミさんのお別れ文、話したいことはたくさんあるのだけど、ここではカミさんのお葬式のために友人代表としてお話しさせてもらったことを思い出しながら書きますね。

カミさんとは公私ともに楽しいお付き合いをさせてもらいました。「公(風の子会)」では、前の号にも書きましたが、表参道のふれあいバザーをはじめ、いろいろな活動を引っ張ってきてくれました。カミさんなくしては風の子会を語ることはできません。本当にありがとう。「私」の方では、家族ぐるみのお付き合いです。ダンナとカミさん、私と家内の和子で、年に1、2回、お宅の隣のしまだソバ屋に飲みに行きましたね。そんなとき、「カミさん、シワが増えてきたな。引っ張ってやろうか。」というと、「何よ、そっちだってハゲが目立つわよ。」なんて切り返してきて、ユーモアを理解するカミさんでした。

カミさんが亡くなった翌日、スメタナという人が作曲した弦楽四重奏曲『わが生涯より』を聴きました。スメタナは作曲家なのに耳が聴こえなくなるという悲運に見舞われました。彼の人生は、作曲家としての名声、突然の難聴、家族との幸せな生活、その家族を次々に亡くすという悲劇など、決して平坦なものではありませんでした。その自己の半生を曲にしたのが、『わが生涯より』です。人生の活力や強い意志にあふれる激しい部分と、楽しい幸せな日々を表す穏やかな部分が交互に出てきて、最後に、いろいろあったけど幸せな人生だったと回想する、美しく静かなメロディーで曲が閉じられます。

カミさんの一生も決して平坦なものではなかったと思います。とくに若いころにはいろいろ辛いことも多かったでしょう。でも、風の子会での有意義な活動やダンナとの結婚など、幸せな方が多かったよね。そして、カミさんが亡くなる前の晩、ダンナがこうつぶやいた。「僕ねえ、こんなにカミさんのことが好きだったなんて、いま改めて分かったよ」。カミさんは目もあまり開かず、話もできなかったけれど、ダンナのあの言葉、はっきり聞こえたでしょう。そして、本当の幸せを感じたよね。お葬式でのお導師様のお話にもあったように、最後に愛に包まれて、幸せに包まれて旅立ったと思います。

カミさんがひとつ気になっていること、それはダンナのことでしょう。大丈夫。ダンナはごきょうだいが守ります。風の子会が守ります。安心して天国から見ていてください。

カミさん、ありがとうございました。また近いうちに（あんまり近くない方がいいけど）、天国で会いましょう。ここでいったん「さようなら」。

みんなの憶い

メンバー・職員より

～ かみさんへ ～

風の子に入ったばかりの頃、かみさんが僕にニックネームをつけてくれた。「茶髪」の「イタズラ坊や」で「チャイ」という名だ。かみさんらしい、やさしさとユーモアとセンスに溢れたネーミングで、今でもたまにふと思い出したりする（結局風の子では浸透しなかったけれど）。

その後、だんなと親しくなるにつれて、だんなにちょっかいをかけすぎたりすると「だんなを乱暴に扱わないで!!」と大きな声でかみさんに激しく叱られた事が何度かあった。かみさんのきびしさとやさしさ、だんなへの愛情を感じた瞬間だった（それでも懲りずにだんなにはちょっかいを続けているけれど）。

会報に書かれているかみさんの文章は、感受性と情緒に満ちていて、読むたびに心が温かくなった。かみさんは、僕が尊敬する風の子メンバーの三人の中の一人だ（あとの二人はだんなとそして和栗さん）。

いつの間にかだんなの親友になってしまい、たまに飲みに行ったり旅行に行ったり、風の子でもバカなことを言い合うような仲になってしまった。だんなは僕にとってかけがえのない存在だ。

だからかみさん、お願いします。だんなをそっちに連れて行くのはもうちょっと待ってください。こっちでは責任を持ってだんなを楽しくさせますから。そっちでの夫婦水入らずは、あと10年くらい先でもいいですよ？

小野塚 航

太田圭子さんが、昨年10月30日（土）に永眠しました。ご冥福をお祈りいたします。圭子さんは、稔さんと夫婦で風の子会に入り、風企画を支えていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。稔さんと二人とも障害がありながら、45年以上夫婦生活を続けてこられて大変な苦勞をしてきたことでしょう。そして、ヘルパーさんと旅行に行くのが趣味で、年に数回の国内旅行や海外旅行へ行くのが楽しみにしていたそうです。圭子さん本人も、まだまだ身体が元気ならヘルパーさんと旅行に行きたかったことでしょう。圭子さんにとって、稔さんを遺して天国へ旅立つのは心配しているのではないかと思います。稔さんのことは皆で見守っていき、支え合っていきたいと思っていますので、圭子さん、天国で皆のことを見守ってください。

合掌
田中 聡

太田さんとは、家が近いので、送迎では一緒の車両に乗り込むことが多く、帰りの送迎時、三木→太田という流れの時、圭子さんの体調が優れないときは、太田さんを先に送っていいと進言していました。圭子さんとは直接しゃべりませんでした。よく松本成子さんや故真部千代子さんと話していた事を思い出します。松本成子さんには髪の毛が伸びている圭子さんを散髪していました。表参道の交差点でバザーできたのも太田圭子さんのお陰だと聞いたことがあります。

とても僕には真似のできないことです。そのバザーには数年間参加しました。ありがとうございました。

三木 直人

太田佳子ことカミさんが令和3年10月30日に死去されました。

79歳でした。

30代で太田稔ことダンナと結婚したらしいです。

私が高校卒業後、「サークルアラクサ」に入会しました。その時に太田夫妻、井出さんなどと出会った時にすでに2人は結婚していた。

当時は障害者などはほとんど家に閉じ込めきりの家が多く、街や駅など階段ばかりでした。それにも関わらず、ダンナとカミさんはどの様な形で結婚したのでしょうか、私はとても理解が出来ません。その2人は最後まで仲が良かったらしいです。カミさんが亡くなった時にダンナは非常に悲しい顔をしていたようです。私もダンナの気持ちを考えたらとても悲しくなってきました。ダンナはそれを乗り越えて生きて欲しいです。

太田夫妻とは、「外に出よう」という行事があってそれが終わった後、太田家で希望者がたくさん集まり打ち上げをやったり、私の誕生日の時に太田夫妻と風の子会の希望者が私の住んでいる港区赤坂に来てみんなで祝ってくれたこともありました。その時はありがとうございました。

カミさんの死去したことを心よりご冥福をお祈りいたします。

yuki

カミさんは風の子に入ったときから僕のことを「たろちゃん」と呼んでいました。カミさんは生き物が好きで、よく僕が飼っている熱帯魚の話で盛り上がりました。「たろちゃん実習所でお魚飼おうよ。」と言う一言で実習所で魚を飼うことになり、カミさんも水槽を見てとても喜んでくれました。カミさんとの思い出は尽きることはありません。カミさんの笑顔、声、好きでした。カミさん、今までありがとうございました。

岡本裕介

かみさんへ。

いつも必ず「ありがとう」と言ってくれたかみさん。

私は、この仕事をして一番嬉しい瞬間です。

いつも感謝を言葉として伝えてくれてありがとう。

いつもかみさんとだんちゃんの二人を見ていたら、お互いに想い合ってる2人が本当に素敵で羨ましかったです。

思いやり、気持ち、大事なことを教えてくれてありがとう。

だんちゃんは、いつも寂しいと言っています。私も寂しいです。

さみしがり屋のだんちゃんの事は、風の子の皆で支えています。

本当にありがとう。

平沼 実華

太田圭子さんに会うといつもニコニコ笑っている顔をおもいだします。ニコニコしているのを見ているとこちらも元気になりました。そんなカミさんが忘れられません。

掛橋竜也

太田けいこさんは笑顔がステキな方でした。時々、みのるさんにプリンとゼリーをあげてました。優しい。

柳川敬事

太田圭子さんへ、長い間お世話を、成りました。私が、太田圭子さんが、いた時に料理教室とか、旧富士銀行の青山支店の玄関前で、第3日曜日のふれあいバザーで、あいました。20歳の頃、障館とか実習所でお昼ご飯、夕飯の時、食事介助の手伝いや送迎の手伝い、しました。2012年の5月に、外に出よう鎌倉に行った時に、私が4班で太田圭子さんと一緒の班で鎌倉大仏に行ってお楽しかったです。芝浦日新ビルの時も朝、太田夫妻の所に送迎の手伝いもしました。

斉藤臣一

太田圭子さんへ

ながいあいだどうもありがとうございました。おつかれさまでした。

朝生孝之より

初めてお会いした時に木村さんの下のお名前を教えると笑顔で気さくに話しかけてくれたのが印象に残っております。

あの時の優しく笑顔の素敵な圭子さんのまま、最後にお会い出来て良かったです。稔さんも変わらずとぼけておりますが、元気に風の子に通ってます。

天国で変わらぬ笑顔でこれからも皆んなを見守って下さい。

木村智宏

圭子さんの思い出はきげんの良い時の鼻歌です。

前作業所で離れたベットにお顔を覗き込みに行くとハミングされていました。

天国でもハミングしながら風の子を見守っていてくださいね。

沼口 奈智

いつもありがとうとやさしく語りかけてくれたカミさんの笑顔が忘れられません。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

星野ひろみ

初めてお会いした時、「よろしくね」と言った、真っ直ぐな凜とした眼差しを今でも覚えています。“風の子”の昔の写真を整理する機会があり何度となく昔の写真をお見せしました。「ありがとう」と言って下さったお顔は写真と同じ、華やかな空気をまとう人を魅了する笑顔でした。お世話させて頂いた時に必ず「ありがとう」とお礼を欠かさない姿は律儀な人柄を伺い知ることが来る瞬間でもありました。数ヶ月の短い時間でしたが圭子さんと過ごすご縁があったことに感謝する共に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

石黒 由里永

太田圭子さんとはあまり携わる事はなかったのですが、たまに顔を合わせるとニコッと笑う笑顔を思い出します。心からご冥福を祈ります。

古池久男

太田圭子さんにはは約5ヶ月間でしたが、お世話になりました。車イスからベッド等への移乗で毎回、笑顔で「ありがとう」と言ってくれる事が印象的でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

小林宏幸

カミさんとの40数年

井出 義文

昨年10月に逝ったカミさんについて思い浮かぶことを書きました。

結婚

「子供のころから、いつか大人になったら施設に入るんだろうなと思っていたの。それで、そのため心障センターに訓練入所したの、そのときに他人の冷たさと施設の生活の厳しさを思い知ったの。そのころ、ダンナに求婚されて、施設に入るか、結婚するか選ばなければならなかったの、そして、どうせ生きるなら、私の持てる力で思い切り生きてみよう、結婚することを選んだの。」（1979年ころサークルアラクサの例会でそれぞれの将来や結婚について語り合ったときのカミさんの言葉。）

雲のライオン

渡辺（現姓：太田）圭子

私は見た 高い空の下で
何頭ものライオン達が
太陽に向かって疾走する姿を
たてがみが風に散り
力強く踏みしめられる脚は
一直線に目標に向かって突き進む
どのライオン達の顔にも疲れの色は見えずに
喜びにあふれるその輝く目は
仲間を労わる余裕を見せて
ああ 白い雲のライオン達よ
希望に向かって突っ走れ
希望に向かって突っ走れ
私も負けまい お前達のように
明日に向かって強く生きよう

（1989年11月 風の子会十周年記念文集に太田圭子さんが寄稿した詩。「・・・独身時代は日記を書いたり文通をしたりで、文にも慣れていたが、結婚して15年、ろくにペンを持たずにきたら、すっかり文を書くのが苦手になってしまって。・・・」とも書いていた。）

〇さん夫妻のこと

〇さん夫妻はともに重度の脳性まひです。風の子ではダンナ、カミさんと呼ばれて親しまれています。

サークルアラクサ発足（1978年）のころからのメンバーで、当時は、ヘルパーは週1回2時間程度しか来てもらえず、両手両足が強い緊張で動かせず、座位もできず、寝返りがやっとというダンナと、膝立ちができて、腕や手の力の弱いカミさん

の二人で暮らしていました。ダンナの食事や排せつはカミさんが一人で世話をしていたのですが、「・・・夜中にベッド（高さ20センチ）からダンナが落ちてしまったの、ダンナはあのおり重たくて私の腕の力では持ち上げることができなくて、ダンナも寝返りで手伝うだけどうまくいなくて、夜中ずっとやっついて疲れてきて、二人で泣いちゃって、お互いの泣き顔をみていてらだんだん可笑しくなって、二人で笑ってしまったの。そしてら、ひょいとベッドにあがることができたのよ・・・」と語ってくれた二人。年とともに体力は衰えて、カミさんはだんだん上肢の力がなくなってきて、さじやフォークが持てなくなり、とうとう口移しでダンナにご飯を食べさせるようになりました。

そして、今ではそれもできずカミさん自身も全面介助になってしまいました。

今は、二人のために毎日ヘルパーさんが来てくれるようになりました。カミさんはときどきヘルパーさんと大好きな買い物や外出に出かけます。置いてけぼりのダンナはヘルパーさんと夜の街に出かけて命の洗濯をします。どんなことがあっても、どこか底抜けに明るくて暗さが見えないのです。・・・（2013年 風の子会 ボランティアハンドブックより。）

馬鹿野郎！

「井出さんの馬鹿野郎！ ダンナのおしっこを採ってくれたってイイじゃないかァ！ ご飯を食べさせてくれたってイイじゃないかァ！ 私なんか、毎日毎日ダンナのトイレやご飯でいっぱい・・・ダンナは委員長の責任で緊張が強くてうまくできなくて、夜中も緊張でドタバタして眠れなくて・・・疲れて・・・それくらい・・・いいじゃないかァ・・・ウェーン・・・井出さんの馬鹿野郎！」（「ダンナが毎週のように夜の委員会を招集するのは、委員長の立場を利用して、活動に来る僕たちボランティアを自分のトイレや夕食の介助のために利用するためじゃないのか、おかしいよ。」という僕の電話に対する二人の悔し涙が受話器から溢れ出して僕の何かを洗い流した。「介助してもイイや」と・・・。40年前の僕の恥。）

あと10年

「僕は、あと10年は長生きしなければならぬと思っている。カミさんにはさんざん世話になったから、カミさんを一人残して死ぬことはできない。僕が守らなければならないと思っているんだ。」（1年くらい前、ダンナのつぶやき・・・守らなければならないと思う人がいることは幸せだったよね。そして・・・最期まで見守ってあげることができて良かったね。）

カミさんがゆっくり静かに旅立ったあとも、風の子にはたくさんの思い出がきらめいていて、不思議と寂しくありません。そして、もうしばらくしたら、その後の風の子のことなどを天国に土産話として持っていくことになるのだと思います。それまで待っていてもらいましょう。



賛助会(寄付)・物品寄付のお礼

賛助会(寄付)ありがとうございます。(1月13日～2月5日)(順不同)

羽鳥貞子様 KYB労働組合様

●昨年5月号で賛助会の募集を行いました、皆様からのたくさんのご寄付ありがとうございます。これまでに集まった賛助会ご寄付は以下の通りです。引き続き募集しています。よろしくお願いいたします。

賛助会実績（2月5日現在） 99名 6,927,285円



所長のため息

今月号に、メンバーであった太田圭子さんの追悼記事を載せています。メンバー、ボランティア、職員のみんなからとても慕われた圭子さんでした。企画のメンバーで意見を出し合い、みんなの想いが詰まった追悼記事となっております。

今年に入り連日、オミクロン株が猛威を振るっています。風の子会では、換気をしっかり行なう、アルコール消毒を徹底して行なう、食事の時にアクリル板を設置する等、何とか感染するのを防ごうとみんなで頑張っています。また感染者の増加に伴い、1月は散歩をやめようということになりました。この状況がいつまで続くか分かりません。またボランティアの皆さんと出掛けられる日が来るまでメンバー、職員、力を合わせてこれからも頑張っていきたいと思えます。

ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

企画編集メンバー

太田 稔	信高 正義
小熊 健	広瀬 依生
小野塚 航	三木 直人
島田 龍司	柳川 敬事
田中 聡	幸 高史

表紙デザイン：小野塚 航

編集人：【高浜生活実習所】生活介護
〒105-0022

東京都港区海岸2-6-29 平成海岸ビル5階

TEL 03(6809)4001

FAX 03(6809)4002

HP：<http://www.kazenokokai.or.jp/>

e-mail：kazenoko@kazenokokai.or.jp

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷3-1-17

ヴェルドゥーラ祖師谷102



1995年8月10日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
2022年2月16日発行SSKS通巻第8416号 風の子便り

ギャラリー
風の子

狐



この絵は、神社と参拝をしている女の子です。
今年も新型コロナウイルスで、風の子で行っていた初詣は中止となりました。
僕の絵を見て、祈願してね。

田中 聡

